

2021

企業向けアルコール検査器（検知器）に関する  
業種ごと・機種ごと導入実績と傾向について



“ 飲酒運転をゼロに ” Since 2003

東海電子株式会社 Tokai-Denshi inc

2021-9-30

# 適用

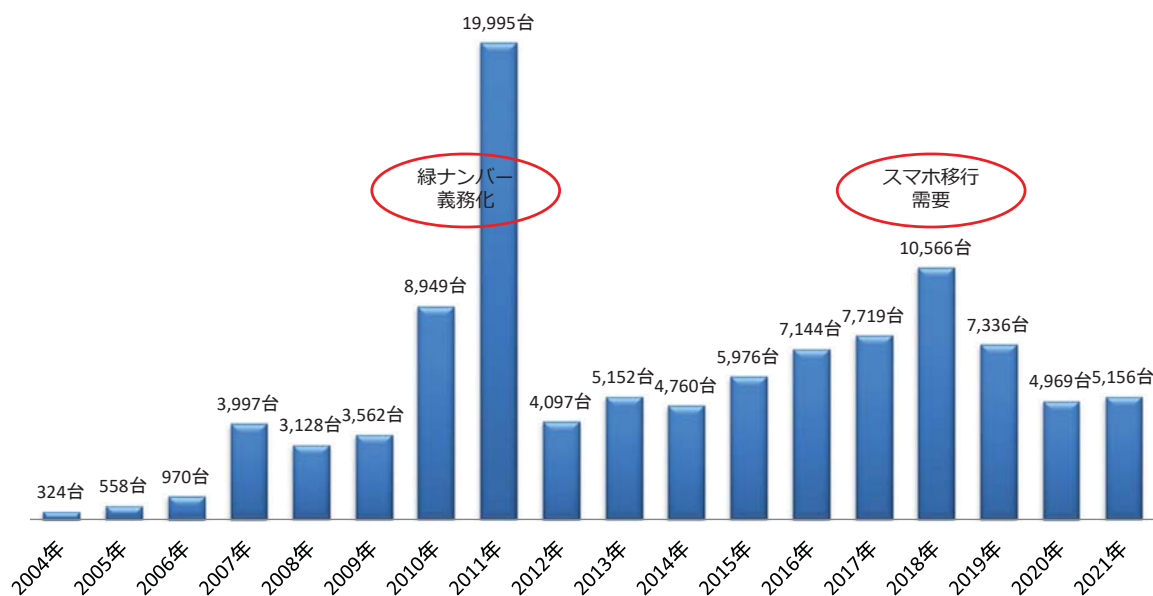
本文書における統計はすべて、東海電子株式会社の自社調べによるものです。本文書は、安全運転管理者選任事業所やその他一般事業者、運輸事業者等が、アルコール検査器（検知器）を法人として導入する際に、導入目的に応じた適切な機種選択を助けることを意図しています。

また、一般消費者におかれましても、個人向けのアルコール検査器（検知器）と、事業者向けのアルコール検査器（検知器）との差異について、興味を持ち、知見を広めていただく手助けになればと考えております。

各種メディア様におかれましても、一般企業や運輸企業が使用するアルコール検査器の使用状況の参考として、どうぞご自由にお使いください。

一部集計において、便宜上、機種を、簡易型、設置型等と称していますが、この定義は当社によるものです。

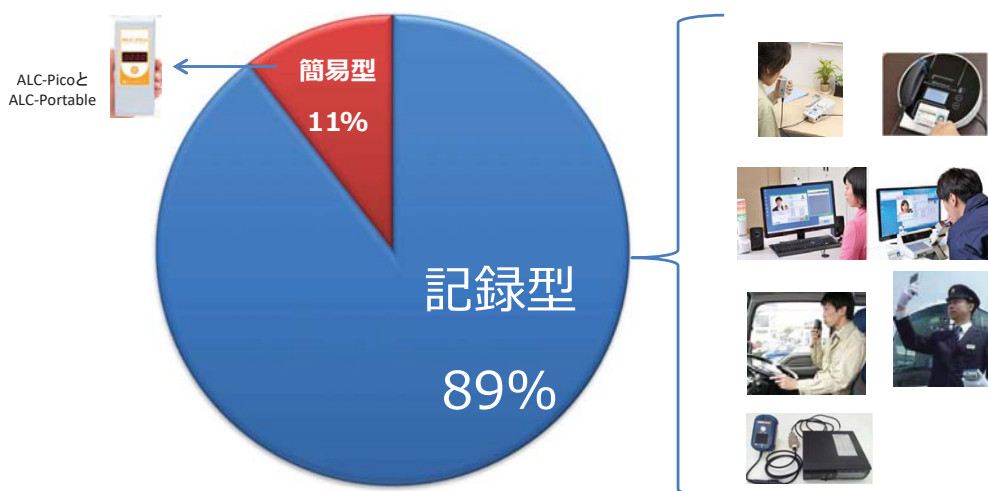
# 東海電子 法人向けアルコール検査器 2003年10月～2021年9月 累計 104,358台



(ALC-PRO,ALC-Mini,ALC-Mobile,ALC-Touch,ALC-Portable,ALC-Zero,デジタコ直結型 (ALC-Picoは含まない))

当社は、2003年10月から、バス、タクシー、トラック、産廃事業者、鉄道、航空、船舶、その他一般企業へ法人向けに特化したアルコール検査器を出荷しています。2021年9月末時点、18年間で、累計10万台を超えました。

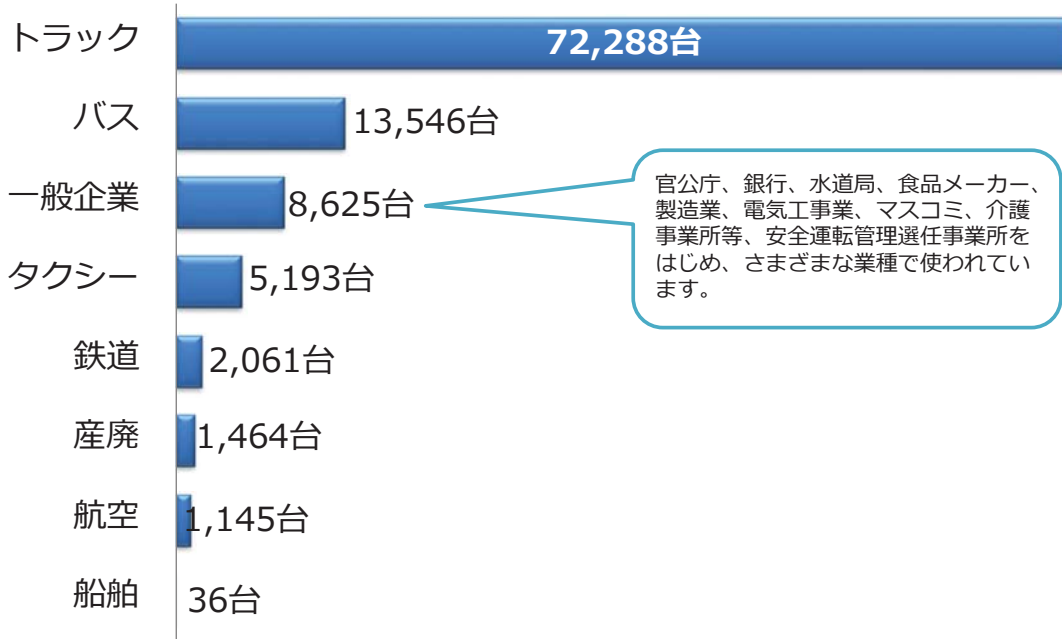
## ほぼ9割が、「記録型」アルコール検査器



当社の出荷実績のうち、**約9割が記録型**（PC保存・感熱紙出力・スマホ経由のサーバー保存）です。法人向けに特化した機器が主力ですが、個人向けに簡易型のアルコール検査器も一部販売しています。旅客会社において全員配布を行うために購入されるケースがありましたが、記録が残らないことから、また、その後のメンテナンス依頼が少ないことから、使用・運用の実態は不明です。また、簡易型タイプは、他メーカーが当社より安価な機種を多数販売しているため、基本的にはそちらが選ばれているものと考えられます。

総評としては、当社の機器としては、「**簡易型・非記録型**」は低調であり、そもそもの飲酒運転の抑止効果および管理用途の効率性から、**当社の実績では記録型が主流である**、と言える結果となっています。

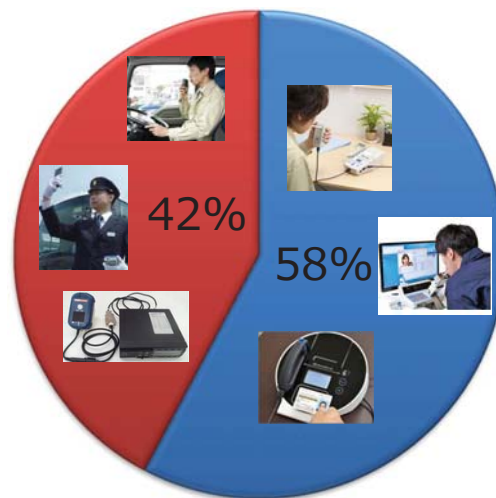
# 販売先の業種内訳



アルコール検査器（検知器）は、トラック企業の実績が最も高く、次いで、バスとなっています。ここ数年は、官公庁や銀行、車両を使う一般企業、マイカー通勤の多い地方の製造メーカー等、非運輸企業の導入が進んでいます。**結果的には、タクシーよりも一般企業の導入数の方が多い結果となっており、企業向けアルコール検査＝緑ナンバー ではない時代になりつつあります。**

## 出荷内訳 対面点呼用、電話点呼用

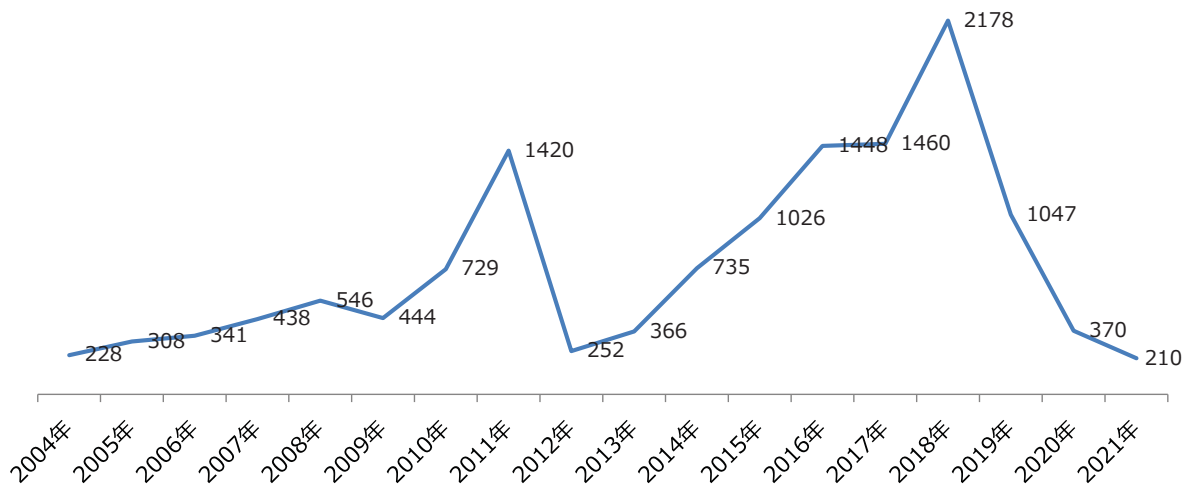
■ 設置・固定型アルコール検査器 ■ 遠隔地型アルコール検査器



当社の業務用アルコール検査器 ALCシリーズは、大きく、対面点呼やIT点呼用の「記録式設置型」と、遠隔地記録式（車載含む）に分けられます。**アルコール検査の運用初期は事務所管理型がまず導入され、その後、遠隔地型が導入されるケースが多く見られます。**どちらかを、というより、結果的には両方を導入し、場面（目的、運行形態）に応じて使い分けているのが実態です。

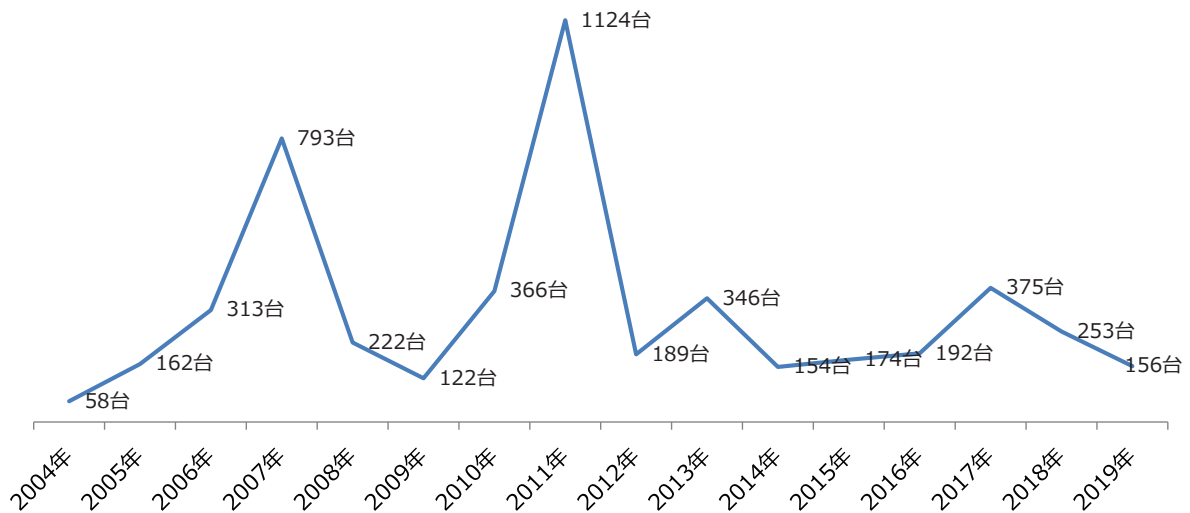
# 業界ごと 検知器導入 推移

## バス



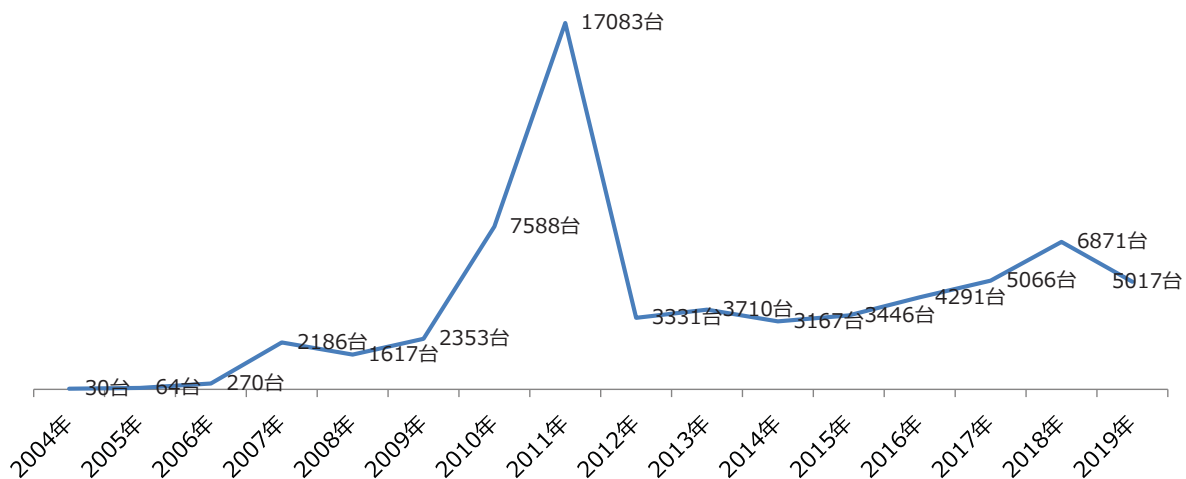
# 業界ごと 検知器導入 推移

## タクシー



# 業界ごと 検知器導入 推移

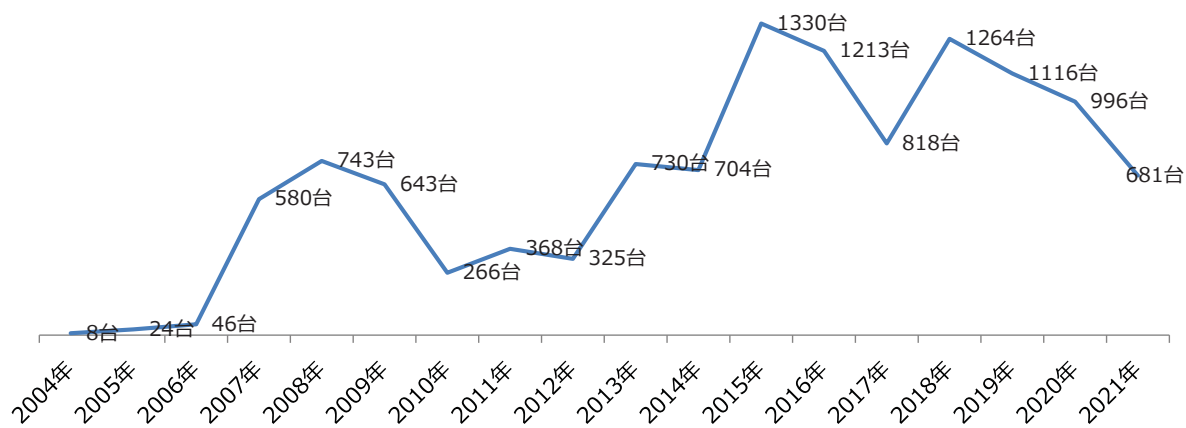
## トラック・産廃



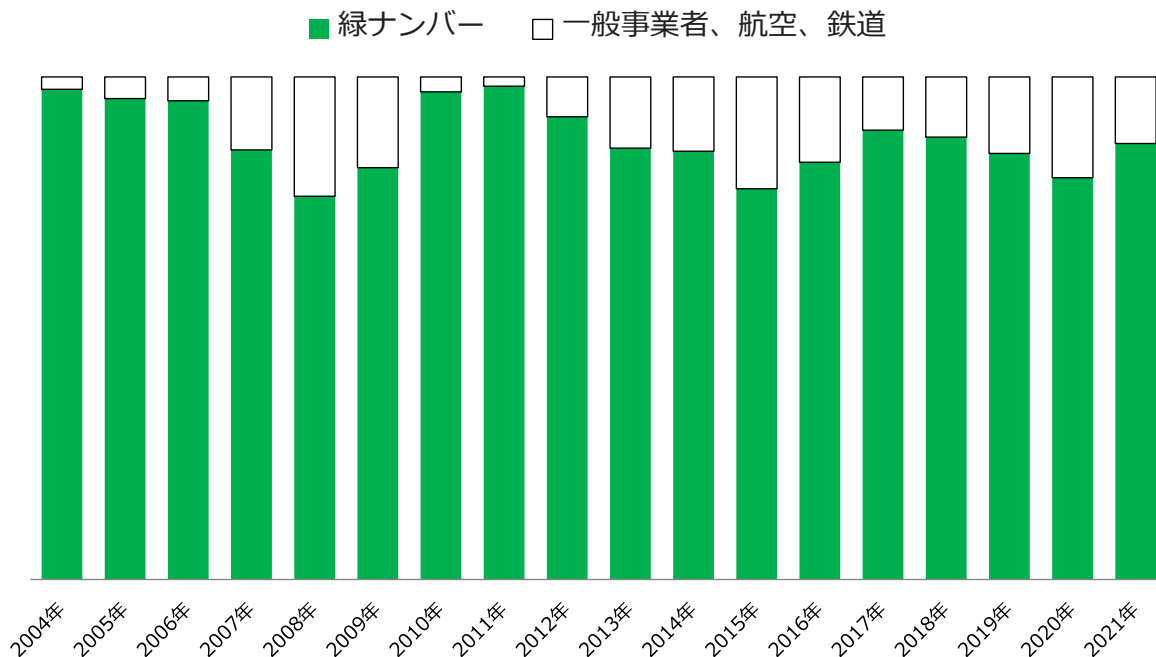
# 業界ごと 検知器導入 推移

## 鉄道・船舶・航空・一般企業

とくに一般企業は市場拡大傾向

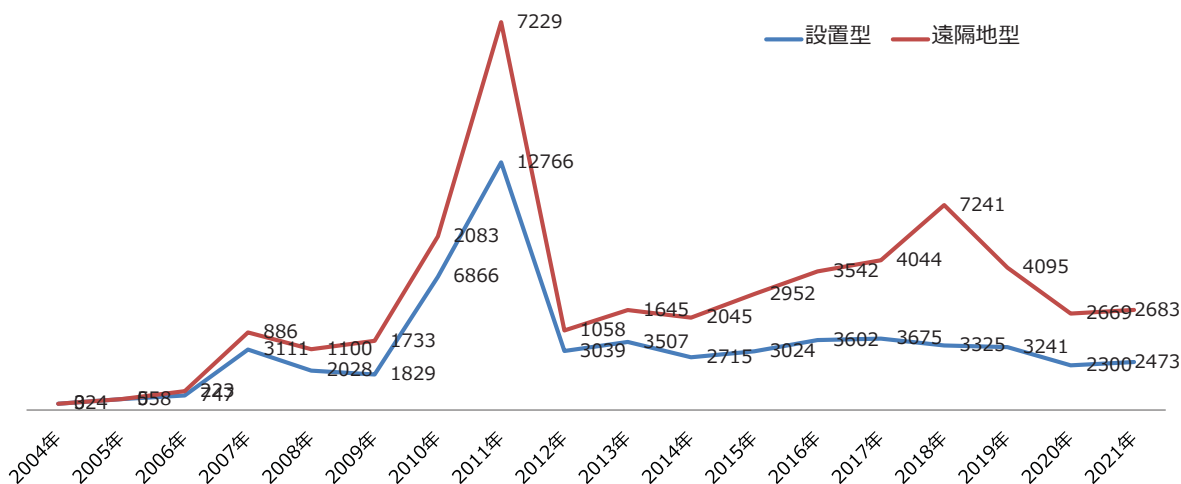


# 緑ナンバーと白ナンバー（一般事業者）



アルコール検知器の使用義務法令とは関係のない業種であるにもかかわらず、一般企業の導入が一定数あります。特定の業種の傾向はみられませんが、建設業、製造業、サービス業等、浅く広く浸透している印象です。企業社会全般において、飲酒運転防止観点ではなく、「健康管理・飲酒管理」意識の高まりが考えられます。

## 設置型アルコール検査器と 遠隔地型（車載型）アルコール検査器

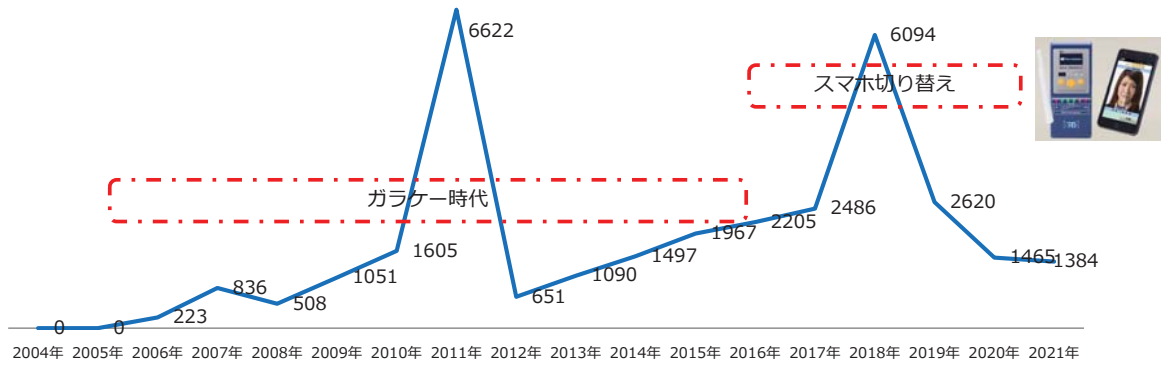


遠隔地型は、車両数や従業員数によって導入数がまちまちです。2台使う企業もいれば、200台使う企業もいます。一方設置型は、ほぼ一営業所に一台がほとんどです。希に多人数処理のため、2台並べて使うケースもあります。基本、1社あたりの導入数は、設置型<遠隔地型 となります。

# 遠隔地型アルコール検査器とは？

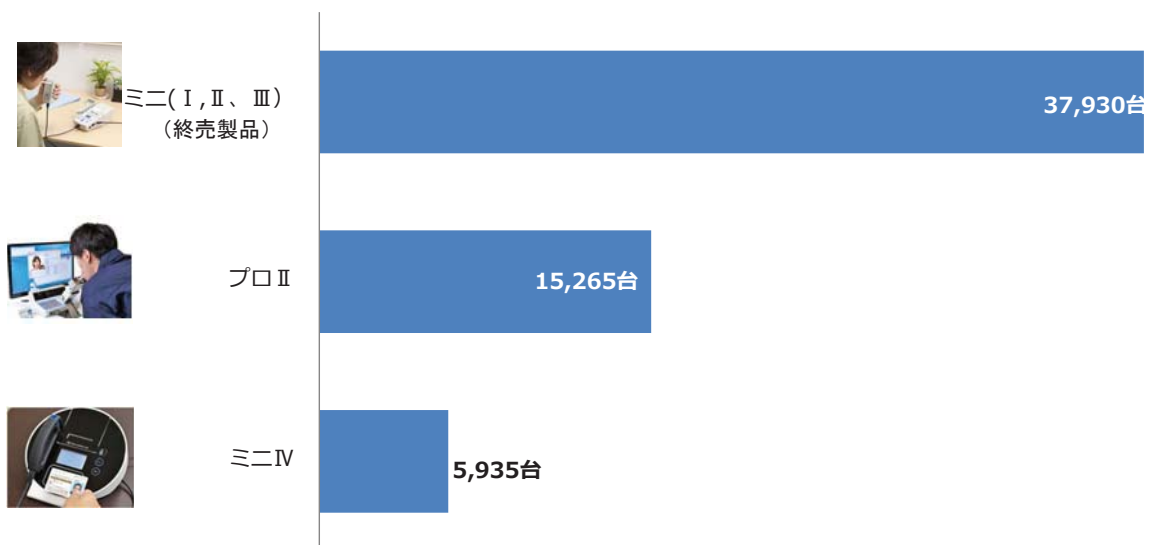


【スマホ接続型アルコール検査器 年度ごと実績】



当社では、遠隔地型として3機種販売しています。出荷実績としては、**スマホ（昔はガラケー）接続型の実績が圧倒的に多いです。ここ最近、デジタコに直に接続するアルコール検知器が好調です。**アルコールインターロックは、大きな事故が起きると伸びますが、それ以外では、毎月スマホ型の1/10くらいの実績です。

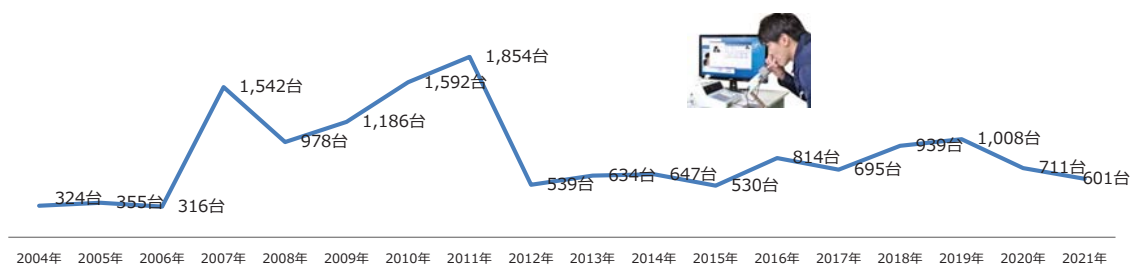
# 記録型・事務所設置型アルコール検査器



2004年～2016年まで販売していたMiniシリーズ（I、II、III）のうち、ALC-miniⅢが8万円台という価格から、3万台以上の実績となりました（すでに終売）。後継機ALC-miniⅣも、免許証リーダー内臓が好評で、順調に実績を伸ばしています。PC標準タイプは30万円前後という高価格帯ながらも、**身代わり防止力が強い**ためか、管理強化ニーズが高く、底堅い実績となっています。



# 記録型・事務所設置型アルコール検査器



ALC-PROは、プロ向けの堅実な製品として、17年というロングセラー製品となっています。エントリーモデルであるminiシリーズは、第IV世代から、**運転免許証リーダー内蔵型**となり、好調な出荷推移となっています。いずれにせよ、「1社に1台」コンセプトの設置型・記録型は、派手さはありませんが、堅調な推移と言えます。

## 本資料に関するご注意

本資料中の200X年とは、当社の会計年度、10月～9月決算期を指します。  
(例 2020年 = 2019年10月～2020年9月)

本資料中の「設置型」「記録型」「簡易型」「遠隔地型」等の、機器タイプのカテゴリは当社によるものです。国土交通省や他メーカーの定義とは異なっている可能性があります。

本資料は、「他者製品への買い換え」「使用停止」等、解約台数は差し引かれておりません。従い、現在の稼働数は、本資料の実績よりも少ない数字となっています。

本資料中の「実績」とは、企業が新規に導入する、導入済みの企業が追加する（いわゆる増設）、新たな世代に買い換える等の指し、「校正」としての出荷は含まれておりません。  
(校正を含めた総センサー出荷数は、平均使用5年×10万台 = 50万台程度と推定されます)